

京都の改革

2

高齢者、幼児と「同居」交流

人の夜間生となら、同世代との交流が苦手な生徒も打ち解けられるのでは」という期待も込められた。

統廃合を新しい学校作りにつなげる点に京都らしさがにじむ。

高齢者施設の食堂で、ジヤージ姿の3年生約10人が、音楽に合わせてダンスを踊っていた。京都市立京都御池中学校の体育の授業だ。観客は高齢者と保育園児計約70人。曲の合間に、生徒が幼児をひざに乗せてあやし、年配の女性たちがこやかに見守る。実は、生徒も高齢者も幼児も「京都御池創生館」という7階建ての建物の「入居者」だ。

京都御池中は、滋野、柳池、城巽の3中が統合して誕生。昨春、この建物に移った。「創生館」の1階にはレストランやカフェも出店する。

「いいでは、身近に幼児

教育ルネサンス

No. 515



①高齢者施設でダンスを発表する京都御池中の生徒②京都御池創生館にはカフェテリアやレストランもある



や高齢者がいるという特徴を生かし、どんな交流しています」と長者美里校長(57)。ベランダの小さな畑で高齢者と野菜を作ったり、放課後、保育所で幼児と遊んだりする生徒もいる。地域の一員という自覚も芽生えた。「避難訓練の時

に生徒が『本番では、自分が園児を抱いて逃げる』と言ったんですよ」と長者校長は感慨深げだ。

*

夜間学級のある市立郁文中学校は、今年、夜間生と不登校生の通う洛友中学校に変わる。郁文中の1部(昼

間)を含む5校が今春統廃合され、郁文中校舎に空き教室ができるからだ。

夜間学級には、戦後の混乱期に教育を受けられなかった人や在日韓国・朝鮮人ら49人が在籍し、平均年齢67・4歳。そんな夜間生と不登校生が一緒に受ける授

業もできる。市教委の担当者「夜間生は、勉強がしなくて入学した人ばかり。不登校生にも学ぶ喜びが伝わると思えました」。

市内には、不登校生向けの学校として04年、教育相談機関を併設した洛風中学校があるが、洛友中には大



進む学校統廃合 文部科学省の学校基本調査によると、2006年度の公立小学校数は2万2607校で、5年前より1112校減、公立中学校は1万1900校で、同239校減となった。自治体は廃校舎の活用策に知恵を絞っており、民間の病院(宮城県石巻市)や町営住宅(徳島県上勝町)といった変わった転用例もある。

も起きている。

以降の統廃合は、市教委と地域が話し合いを重ね、地域の要望に基づいて進める形を取っている。

廃校舎を「京都国際マンガミュージアム」や「学校歴史博物館」にした例も、

地域の意見を取り入れた。京都流の統廃合には、望ましい教育環境作りと旧校舎への愛着を調和させようという苦心がうかがえる。

(木田滋夫)